令和７年度　地域連携推進会議　開催等状況報告

法人名　社会福祉法人　さゆり会
代表者職・氏名　管理者　林田 輝久
（担当者：馬場　　電話：0959-75-5504）

施設・事業所名	やまゆり荘		
所在地	長崎県五島市下崎山町６９９番地		
定員数	１９名	入所・入居者数	１９名

１．会議の開催状況

会議の出席者		令和８年１月２８日　14：00～15：00	
開催場所		やまゆり荘　食堂	
出席者		人　数	備考（所属・役職・職種等）
	利用者	１　名	Ａ・Ｏ氏
	利用者の家族	１　名	Ｎ・Ｓ氏
	地域の関係者	１　名	崎山町地域住民
	福祉に知見のある人	１　名	特定非営利活動法人 gotoChallenged 椿　管理者
	施設・事業所等職員	２　名	管理者、サービス管理責任者

会議の議題

① 地域連携推進会議の目的

地域連携推進会議は、施設の運営にあたり地域の皆様のご理解とご協力をいただくとともに、入居者と地域住民との関係づくりを進め、施設および入居者への理解を深めていただくことを目的としています。

② 出席者自己紹介

③ 入居者の現状報告

【支援内容・職員配置】

令和７年度事業計画に基づき説明を行いました。

【入居者状況】

入居者の年齢構成、入居年数、障がい支援区分、日中活動の状況および入居率について説明しました。あわせて、入居者の高齢化に伴い、精神疾患だけでなく内科的疾患も増加しており、通院同行が増えていることから、ほぼ毎日通院支援を行っている現状を報告しました。

　また、生活の中での楽しみや意欲維持も大切にしており、週末のカラオケ、健康維持のためのウォーキング、環境整備、おやつや夕食作り、クリスマス会などの行事を実施していることも伝えました。

【事故報告（1 件)】
入居者が自室前の廊下で転倒し骨折、手術後 2 か月以上入院となったことを報告しました。施設全体の高齢化が進んでいることから、転倒予防のため手すりの設置を行ったこともあわせて報告しました。
【ヒヤリハット報告（2 件)】
服薬箱に別の利用者の薬が入っていた事例と朝・夕が逆に入っていた事例ありましたが、服薬前に気づき未然に防ぐことができました。再発防止策として、職員によるダブルチェックを徹底しています。
【地域行事への参加状況】
新型コロナウイルス感染症の流行以降、地域行事の自粛や中止が続き、参加機会が減少しています。また、入居者の高齢化に伴い、参加できる方も少なくなっている現状を報告しました。
【BCP（業務継続計画）に関する報告】
感染症や自然災害発生時においても入居者へのサービス提供を継続し、早期の業務再開を図るための計画について説明しました。今後、災害時の避難場所の再確認や避難誘導訓練の実施を検討していることを報告しました。

④ 施設内見学

構成員からの質問、助言、感想等
・以前はよく買い物に出かける人を見かけたが、今も行っているんですか？
→現在も買い物に出かけています。以前より回数は減っていますが、崎山にある伊東商店などを利用されています。買い物を希望される場合は、通院の帰りに立ち寄ったり、土曜日に運行している定期便を利用したりしています。また、通所先の買い物支援を利用して購入することもあります。ゆっくり買い物をしたい方には、土日に計画を立てて個別支援で対応することもあります。個人でタクシー券、チョイソコを利用して通院や買い物に出かける方もいます。

・入院が長くなった場合の利用継続について、どのような対応になるか教えていただけますか？
→利用者の入院が長期化した場合、待機期間に明確な期限は設けていませんが、おおむね 3 か月を一つの目安としています。今年度、精神症状の悪化による入院は 2 名でした。その他は内科疾患や整形外科的疾患による入院が多くみられます。利用者の高齢化に伴い、精神面の不調だけでなく、内臓疾患や外科的治療を必要とするケースが増えているのが現状です。日々の声かけや関わりを増やし、利用者の言動の把握に努めるとともに、職員間での情報共有を行い、体調変化時には速やかに医療機関へつなげられるよう周知しています。

・施設を出て行かれる方もいるんですか？
→最近、突発的に外出された利用者がいました。幻聴などの影響を受けて外出された可能性があります。以前から同様のケースがあったため、施設設備としてセンサーを設置しています。また、出入口には防犯カメラを 2 台設置し、外出された方向を確認できるようにしています。
　外出に気づいた場合は職員が捜索に出ますが、すぐに見つからないこともあり、対応の難しさを感

じているのが現状です。過去には遠方（福岡方面）まで移動された方もおり、その際は所在確認の連絡を待つ状況となったこともあります。外出先で所持金がなくなり警察に保護されたケースや、病状が悪化し救急搬送されて連絡が入ったケースもありました。

・感染症が流行ったことはあったんですか？
→感染症の発生については、新型コロナウイルスの感染がありました。隔離などの対策は行っていますが、生活の場であるため完全な隔離環境を整えることは難しい状況もあります。感染している利用者がマスクを着用せず居室から出てしまうことや、症状の影響で幻聴や妄想が強まる方もおられ、対応に苦慮する場面があります。業務継続計画（BCP）に基づく訓練・研修が義務化されていることから、感染症発生時を想定した実践的な訓練を実施していきます。また、感染症対策の一環として、2月に法人の訪問看護師を招き、ガウンテクニックなどの実技研修を行う予定です。

・災害発生時には、家族への連絡も行われますか。備蓄品はどこに置いているんですか？
→災害発生時の家族への連絡については、業務継続計画（BCP）内のマニュアルに沿って対応します。また、計画内容の確認や見直しも随時行っています。備蓄品は利用者数に応じて 3 日分を目安に、食料や飲料水などを確保しています。
　備蓄品の保管場所については、施設裏の倉庫、厨房、Ｉ号棟２階の倉庫など、複数箇所に分散して配置する方向で検討しています。あわせて、停電時に備え自家発電機の導入も検討しています。訓練・研修では、食中毒対策や熱中症予防について実施しました。

・暑い時期でも冷房を使わない方はいますか。
→冷房を使用しない利用者もいます。電気代を気にして使用を控える方や、自身の暑さの感覚が分かりにくい方もいます。また、水分摂取を促しても進まない場合があり、対応に苦慮することがあります。そのため、ポカリスエットや OS-Ｉ などの飲料を準備し、水分補給を促す対策を行っています。

ご家族より、「もう５年以上お世話になっており、本当によくしていただいて感謝しています。お盆とお正月は帰省しますが、ここ（やまゆり荘）へ戻ることに抵抗はないようです。自分の部屋があり、帰る場所があると感じているようで、安心しています」とのお言葉がありました。

施設内見学
　Ｉ号棟Ｉ階居室とトイレ、お風呂場などを見学しました。

その他
管理者より、現在宿直専属職員を配置しているが、今年度末で退職予定のため、新たに宿直職員を探しているとの報告があった。該当する方がいれば紹介してほしい旨の依頼があった。やまゆり荘の職員のみでは宿直体制の維持が難しく、他事業所の男性職員へも協力を依頼している状況である。宿直明けも通常勤務があるため、職員への負担が大きいことから、人員確保について引き続き協力をお願いした。